

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月8日(火)

会場:田幸コミュニティセンター

参加者数:27人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>田幸地区のふるさとランチに携わっていたことから、三次学校給食センターの開所式に出席させてもらった。給食センターの取組を、子どもたちにPRしてほしい。自分も、当日の新聞記事や写真をもとに資料を作成した。素晴らしい施設をつくったことは誇りで、市には大事であると思わせるような仕掛けをしてほしい。様々な機会を捉えて、子どもたちに、給食センターでは地域の農産物を利用していくということを強く訴えてほしい。8月22日と29日に、給食が配送されると聞いたが、各学校に配るのか。</p>	<p>これまで、田幸地区の皆さんには、給食調理場の運営や食材調達において熱心に取り組んでいただいた。三次学校給食センターは最新設備のある施設であり、積極的に情報発信をしていきたい。保護者には、学校を通じて、情報提供している。また、調理場にはカメラを設置し、調理場の様子などをオンラインで学校へ届けることができる。現場の様子を見せながら、給食センターの職員および調理員の思いや、実際に食材を提供していただく生産者の思いを、教室にいる子どもたちに伝えることができる。さらに、保護者の方のみならず、市民の皆さんには、施設内において試食してもらえるように計画している。子どもたちに給食提供のすばらしさを発信していきたい。なお、8月22日と29日に実施するリハーサルは、調理業務や配送業務の手順を確認するためのものであり、一部の学校への配送になる。夏休み中であるので、児童クラブの子どもたちに食べてもらうことになる。</p>	
<p>田幸地区はごみの不法投棄が多い。公衆衛生協議会では、看板を設置するなどした。地域が廃れていくような中で、ごみを不法投棄されてしまうと、人が住んでいるのかという感じを持たれる。行政からも呼びかけや看板の設置をしてほしい。</p>	<p>ごみの不法投棄について、モラルの向上が一番大切であり、地道な対策が必要である。人間の心理を逆手にとって、投棄場所にゴミのポイ捨てや不法投棄を無くそうと、鳥居を設置するなどの取組をしている地域もある。また、防犯カメラを設置するなどの対策もある。市としては、様々な対策を積み重ねながら、不法投棄やごみに対するモラルを向上させていきたい。</p>	
<p>地域によるまちづくりをするために、何か手伝いができる人など、市全体でアンケート調査をしたらどうか。市広報紙に折り込み、各コミュニティセンターにアンケート回収を任せ、市が集計する。市全体で地域課題や状況を吸い上げてほしい。</p>	<p>自治会へのアンケート調査については、参考にさせていただく。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の空き家の状況を把握して、外部に向けて利用促進を呼びかけたらどうか。 ・遊休農地、いわゆる休耕田が増えていることから、外向けにPRし、利用者には助成金を出すなどしてはどうか。 	<p>現在、三次市空き家情報バンク制度があり、空き家を登録してもらい、活用を促している。定住につながった事例もあることから、引き続き、地域の皆さんのご協力をいただきたい。コロナ禍による、地方移住の傾向が今も続いていると聞く。本市における移住相談件数も、年々増えており、この機会をとらえて、空き家などを活用しながら、本市での暮らしをイメージしていただけるような取組を行ってきたい。</p>	
<p>地域人材の掘り起こしが重要である。</p>	<p>チーム三次として、高齢者や高校生などにはいろいろな地域づくりに参加していただいている。また、中学校の総合学習の時間で、環境整備に向けた地域づくりに参加していただいている。皆さんの一つひとつの力が、まちの活性化につながっていく。高齢者の皆さんから若者に、いろいろな知恵や経験を伝えていただき、地域全体の魅力を磨いていただきたい。そのような人材の掘り起こしも課題であることから、本市としてもしっかりと取り組んでいきたい。</p>	
<p>消防署の消防ポンプ自動車や高規格救急自動車が入れない場所もあるのではないかと。そのような場所を精査してもらいたい。</p>	<p>市道改良は計画的に進めているところだが、消防車や救急車などが入れない市道もある。限られた財源の中で、一度に解消していくことは難しく、優先順位をつけながら、計画的に市道改良を進めていく。例えば、緊急車両の入れない市道は優先順位が高いと認識している。</p>	
<p>田幸地区は下水道がない。引っ越してこようとしても、インフラが揃っていないため、外部から入りづらいのではないかと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・田幸地区は、合併処理浄化槽での対応になる。下水道の整備について、本市の場合は汚水適正処理構想があり、一般的には、家が密集しているところは集合処理を行い、そうでないところには合併浄化槽等での対応とし、補助金を出している。 ・下水道の整備区域外では、合併処理浄化槽を設置するときに、市の助成金もあることから、個別に相談していただきたい。 	
<p>近隣の観音池が越水することから、廃止をお願いしている。しかし、廃止するにも多額の予算がかかることから、待機の状態である。避難所である田幸コミュニティセンターや集会所にも、水が流れ込むなどの影響が出てしまう。田んぼダムのように、日頃から、ため池を空にしておけば、大雨時に使えるのではないかと。最近、溝から道路上に水が溢れているので、対策をしてほしい。</p>	<p>使われていないため池については、空にする、あるいは普段から水位を下げて運用することも考えられる。場合によっては改修が必要となる。各地域における水害対策として、ため池の活用を検討している。</p>	

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月8日(火)

会場:田幸コミュニティセンター

参加者数:27人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>広域農道から斎場に行く橋を渡った辺りは上り坂のカーブになっており、この時期は枝が生い茂り、とても見えにくく、危ない。車はスピードを出して下ってくる。子どもたちが渡る横断歩道が近くにあるため、横断歩道があるという目印をつけてほしい。</p>	<p>現地確認をして、対応できるものは、しっかりと対応していく。</p>	<p>【住民自治組織に回答】 広域農道(市道海田原大田幸線)沿道の通行に支障となる樹木については、具体的な場所等を教えて頂き、現地を確認し対応を検討します。また、横断歩道へのカラー舗装については、PTAや学校を通じて、「三次市通学路交通安全プログラム」を主宰する教育委員会に、通学路に係る危険箇所の報告を頂きたいと思えます。報告を頂きました箇所の対策について、教育委員会や警察、道路管理者、学校、PTA等による合同点検等を実施し、カラー舗装などの対策を実施します。</p>
<p>中学校のクラブ活動について、夏休み期間中は13時ごろから開始する。約4キロある道を自転車で行く子もいるが、非常に暑い時間帯である。先日も山形県で、クラブ活動の帰りに生徒が倒れて亡くなったというニュースがあった。教育委員会から学校へ、この時間帯は部活動をしないようになどの指導はしないのか。</p>	<p>酷暑の中の通学・部活動は、山形県の事案を受けて、各学校に対して、時間的なことや健康の安全確認などを徹底するように指導している。午後の部活動を中止するということではなく、厚生労働省の基準に沿って活動することを徹底し、熱中症の危険がある場合は、部活動をしないように通知している。これは塩町中学校だけの問題ではない。通学時間等も含めた活動の時間の設定について、再度、検討するように伝えていく。安全・安心があってこそその活動であり、引き続き学校では徹底していく。</p>	
<p>三次青陵高校と塩町中学校までの坂道にある木の伐採について、感謝している。</p>	<p>—</p>	
<p>三良坂地区の長田にあるため池では、イノシシが土手を掘っている。鳥獣駆除の状況について教えてほしい。</p>	<p>猟友会の皆さんと一緒に、いろいろな鳥獣対策に取り組んでいる。主に猟友会の皆さんに積極的な駆除をしていただいているが、本市では、若い方々が免許を取られるなど、若返りも促進されている。令和3年度と令和4年度を比べてみると、イノシシやシカの捕獲頭数が増えている。イノシシについては、令和3年度1,700頭程度であったが、令和4年度は3,000頭程度の捕獲をしている。農業被害額も、本市全体では減少傾向の状況である。引き続き、猟友会や地域の皆さんと連携しながら、鳥獣被害対策を行っていく。特定の地域では、クマが出たなどの報告もあることから、目撃情報は行政にお寄せいただきたい。</p>	
<p>3歳未満児保育が拡充され、多くの子どもたちが保育所に通いはじめ、にぎやかになっている。しかし、駐車場が狭く、線も引いていないため、保護者の駐車が困難になっている。保護者会からも車の止め方を提案をしている。朝と夕方の送迎の時間帯では、どうしても渋滞が起きる。周辺の空き地や空き家、田んぼなどの駐車場への活用を検討してほしい。また、駐車場に白線を引いていただき、車の止め方をわかりやすくしてほしい。</p>	<p>駐車場の今後の対応については、シミュレーションさせてほしい。今のスペースで送迎ができるのか、周りの土地を借用しなければならないのかなど、いろいろな想定を行いながら、検討させていただきたい。</p>	<p>保育所職員の車を田幸小学校に移動し、駐車スペースを確保済。</p>
<p>・子育て政策をしっかりとやっていただいている。しかし、そもそも子がいなくなったら、子育て施策は終わってしまう。結婚のきっかけづくりをしてほしい。 ・婚活イベントの会費は、5,000円程度であると思うが、少し高めにすれば、本気で結婚を考えている方が参加するのではないか。仮に成約した場合、1千万円ぐらいのお祝い金を出すなどできないのか。</p>	<p>本市では、結婚コーディネーターの協力のもと、結婚するきっかけづくりの事業として、婚活イベントなどを実施していただいている。十分な成果は出ていないが、出会いがきっかけで結婚につながったという報告もある。補助事業も実施している。引き続き、連携しながら取組を進めていきたい。いい知恵があれば、教えてほしい。</p>	

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月8日(火)

会場:田幸コミュニティセンター

参加者数:27人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>中高一貫校が始まって、良かったことと悪かったことについて聞きたい。市外に出ていく子もいる。大人になった際の受け皿についても考えなければならない。</p>	<p>令和元年から中高一貫校になり、中学校1年生で入学した子が高校2年生になっている。これまで、皆さんといろいろと議論しながら、子どもたちの進路、あるいは夢や希望をそれぞれ実現していくための選択肢を増やそうと、行政、経済産業界、議会が一緒になって取り組んだ結果として、実現したと理解をしている。今の時代においては教育が終わった後も、学び直しをする、ボランティアや副業をするなど、様々な選択肢を自分で見つけて生きていくことが必要となっている。自分がこれからどのような人生を歩んでいきたいのかを考え、そのための選択肢があるという環境は、一つのメリットであると思う。今、県立三次中学校を含めて市内にある3つの高校の校長先生と、常に連携をとりながら、この中山間地域をどのように育てて、守って、次の世代へ継承していくのかについて話をし、取組を進めている。いろいろな場所や分野で活躍してほしいが、一方で、このふるさと三次をしっかりと支えていく人材を育てていくという視点を持ち、取組を進めている。田幸地区では、ふるさとと学校とをつないだ学びを積極的に実施していただいております。ふるさとを大切に思って生きていくことに必ずつながると思っております。人とのつながりが豊かになるところに非常に魅力を感じて、若い方もベテランの方も一緒にまちづくりしていただいている。そういうところに魅力を感じている若者は間違いなく増えてきている。今、地域で取り組んでいただいていることや、市内の高校と一緒にやろうとしていることをずっと続けることにより、本市に帰ろうという子どもや、本市に関わっていく子どもは確実に育つという確固たる思いをもって、私たちは教育に携わっている。これからも、小学校、中学校、高校による取組について、ご支援をいただきたい。</p>	